

研究開発拠点

資料 2

	定 義	実 例	委員の指摘	事務局提案
施設共同利用型拠点	ナノテクノロジー・材料分野の研究開発に有用であるが、単一組織での構築、維持管理が困難な大型施設を整備し、研究者の共用サービスに供することを目的とする組織	・国立大学共同研究利用機関 ・高輝度光科学研究センター（SPring-8） ・高エネルギー加速器研究機構物質科学研究所放射光研究施設 ・物質・材料研究機構強磁場環境利用施設群	・既存の拠点の積極的利用が重要。それらとナノテクノロジー分野のドッキングをすればよい（井上） ・大型設備が必要な分野には共同利用設備が必要である（茅・岸）	[方策] ・既存の施設設備の積極的活用を図るべき ・情報公開、遠隔利用などユーザビリティを考慮した運営、利用手続きの簡素化が必要 [留意事項] ・公的施設であり公開性を保つ必要 ・たんばく質の構造解析等新たな需要により新規に整備する必要がある場合にも共同利用体制を前提
フラグシップ型拠点	喫緊の研究開発課題に対処するための比較的大規模な研究開発拠点で、製品化プロセス開発までを連続して行う組織	・アトムテクノロジー研究体 ・あすかプロジェクト ・MIRAIプロジェクト	・1社の手に余るような大規模研究開発では、それなりの大型拠点が必要となる（石原） ・マルチファンド運営の場合の資金運用の柔軟な扱いが必要。また、資金提供組織間での知的所有権の取り扱いの統一が必要である（中村） ・フラグシップ型は産学官の拠点として集中的に実用化を目指すべき（井上） ・どうすればうまく人を動かせるか考える必要がある（北澤） ・産学官連携の分かりやすい成功例・モデルを作ることが望ましい。このため、研究開発拠点に優秀な人材を集	[方策] ・具体的な目標実現に向かって集中的に研究開発を遂行するため、優秀な人材を揃えた時限的組織であるべき [留意点] ・人材の移動を阻害するような制度を解消していく努力が必要
分散型拠点	実現すれば非常に影響の大きな科学技術課題を対象に、長期的な実用化を展望しながら研究開発を行う比較的小規模～中規模の研究開発組織	・科学研究費補助金COE形成基礎研究費 ・創造科学技術推進事業 ・アトムテクノロジー研究体	・萌芽の研究では大規模拠点より特徴ある小規模拠点のネットワークの方が有効である（石原）。 ・世界的に真にトップに位置している分野・領域を研究開発拠点にする（井上） ・様々な重点分野を推進する基幹科学技術であり複数分野の拠点が必要である（川合） ・萌芽的プロジェクトが同一施設に集結すると共通インフラ、情報交換の点で有利になる（吉田）	[方策] ・世界的に真にトップに位置している既存の研究組織をマネジメント改革により効率的な研究開発を実現する拠点に整備 [留意点] ・他の分散型拠点等との交流、情報開示の実現

上記3つの拠点のいずれについても産官学から隔てなく参加可能であるべき。